

こまえ

平成29年(2017年)11月
通巻第65号

図書館だより



図書館ホームページ <https://www.library.komae.tokyo.jp/>



—今号のトピックス—

- ・開館 40 周年
- ・マナーアップキャンペーン
- ・講演会のおしらせ
- ・聞かせて狛江の昔むかし
- ・お楽しみカバーブック

Shimizu



狛江市立図書館 開館 40 周年



狛江市立図書館は、昭和 52 年 11 月 23 日、狛江市民センターの 1 階に開館しました。40 年の間、「暮らしの中の身近な図書館」をめざして、皆さまとともに歩んでまいりました。このたび 40 周年を記念して、図書館資料の取り扱いに関する内容のしおりを 3 種類作成しました。ご来館の皆さまにお配りしておりますので、是非お使いください。

開館40周年記念講演会

絵本がもたらす楽しい時間

～ブックスタートその後の絵本の読み聞かせ～



講師の中村 榎子さん

平成 29 年 10 月 21 日 (土) に狛江市立図書館
40 周年記念講演会「絵本がもたらす楽しい時間」

を開催いたしました。『絵本はともだち』などの著者であり、幼稚園教諭や保育園の園長として長きにわたって幼児教育に携わってきた中村 榎子さんに講演していただきました。豊富な経験に基づき、子どもの成長と絵本の関係性について、ユーモアを交えて楽しく語っていただきました。講演の中で、絵本には、「人と人とのかわり」がたくさん詰まっており、子どもの成長に合わせた絵本と触れ合っていくことが大切だと述べられていました。当日は、あいにくの雨でしたが、子育て中の方や、お孫さんに絵本を読みたいと思っている方、すでに地域で読み聞かせのボランティアをされている方などが参加されました。そしてこの講演会を機に今後新たに読み聞かせをやってみたく思われる方もいらっしゃいました。みなさんで大変心温まる時間を共有することができました。

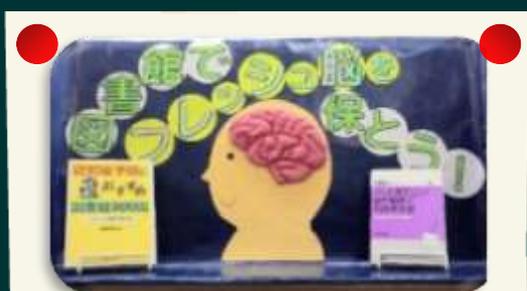


図書館マナーアップキャンペーン 2017

皆さんに気持ちよく図書館を利用していただくため、毎年「本が泣いています」をテーマに、利用マナー向上に関する啓発キャンペーンを実施しています。

11月15日(水)から30日(木)までの期間、市民センター1階ロビーのショーケースでテーマに沿った展示を行っています。傷ついてしまった本、修理されて蘇った本などを並べ、利用上の注意事項も合わせて掲示しています。

また最近、図書館内での利用マナーに関するご意見が寄せられています。図書館の施設や資料は市民の皆さんのものです。お互いに譲り合ってご利用いただけますようお願いいたします。



日時
平成29年 12月17日(日)
14:00~16:00(13:30開場)

場所
中央公民館 地下ホール

定員
80名(先着順)

利用支援サービス講演会
図書館で
フレッシユ脳を保とう！

いつも利用している図書館で
“フレッシユ脳”を保つ方法を
学んでみませんか？

講師に結城俊也さんをお招きして、
さまざまな図書館の利用法から元氣
な脳の保ち方を講演していただきます。



聞かせて狛江の昔むかし

京都への旅 伊豆美神社「旅中日用記」より

井上 孝／著 (狛江市文化財専門委員)

文化文政時代(18世紀初め)になると、神社や寺院をまわりながら名所旧跡を訪ね、名物を食べる旅が盛んに行われるようになった。伊豆美神社(江戸時代には行宝院といった)の「旅中日用記」からその姿を垣間見ると、狛江を7月7日に出発し、京都まで17日間(宮だけ二泊している)、毎日最高48km、最低15kmの道を歩くか籠に乗り続けた。全行程を480kmとして1日平均28km歩くことになる。(48kmは小田急線なら新宿・愛甲石田間、28kmは新宿・玉川学園間に相当する)

「お江戸日本橋七つ立ち……」の歌にあるように(七つは午前4時のこと)朝は早い。みんなと一緒に出れば暗くても怖くはないが、遅れて夕方暗くなってから一人で歩くのは怖い。そこで朝は暗くてもみんなと一緒に出て、明るいうちに宿に着くようにした。だから宿に入るとすぐ宿賃を払い、いつでも出られるようにしておく。宿賃は有名どころほど高く、最高が宮(名古屋)で500文、あとは400文か350文が多く、最低は櫛田で272文だった。(なお費用は、宿賃は2人分、その他の場合も2人分の場合があるので、およその数と見て欲しい)

昼食はおもに宿場でとるが、休憩は清見寺や新居のような風光明媚なところや名物がある場所で食べるようだ。

途中大変なのは箱根越えと大井川の川越しである。大井川は往復とも徒歩で渡ったが、往きは324文、帰りは440文の他、荷物の渡し賃も支払っている。水量も関係するのだ

ろうか、同じ場所でも料金変動する。その他、相模川、酒匂川、安倍川、天竜川、浜名湖でも渡し賃、人足賃を支払っている。

人足に支払った賃金は宿場間の賃金なので、距離の違いもあるが駄賃帳によると、小田原・三島間(箱根越え)が断然高く1人960文で、2位の見付・浜松間234文を断然引き離している。最低は御油・赤坂間の24文だった。

京都は7月23日夜から28日朝までと、8月10日夜から23日朝までの2度に分けて滞在し、後半は宝寿院に泊まったと書いてある。自炊しながら修験道の修行に励み、京都見物を楽しんでいたようである。だから宿泊代は必要ないが、最後の日にお礼として、前半は金1朱、後半は金1分を支払っている。そのほか滞在費用として米、芋、薩摩芋、菜漬、卵、味噌、紙、半紙、ちり紙、手拭、さらし6尺、針、水油、炭、麻縄、薬などを購入し、布団、蚊帳、袈裟、御殿装束などの借用料を支払っている。

京都の合間に奈良に行き、帰りは伊勢をまわって9月9日に狛江に帰ってきた。おもな拝観地は小田原玉滝坊、熱田神宮、清水寺、京都天神社、円城寺、三輪神社、多武峰、長谷観音、岡寺、白子観音、伊勢神宮など、今も有名な寺院や神社だった。

宿泊場所は、狛江を出ると次は長津田、大磯、小田原、三島、蒲原、府中、金谷、浜松、二川、池鯉附、宮、桑名、庄野、土山、草津、京都の順になっている。

また、昼食場所は、厚木、小田原、畑、三嶋、興津清見寺前、岡部、掛川、新居、不明、宮、宮、佐屋川、四日市、不明、水口の順になっていて、初日と最終日は記載なし。それぞれの場所を地図で探してみましよう。

江戸時代の旅についての本を紹介します!

『江戸の旅と交通』竹内誠/監修 学研 682 円

『江戸の旅は道中を知るとこんなに面白い!』菅野俊輔/編著 青春出版社 384 円

『旅行用心集』八隈蘆菴/著 桜井正信/監訳 八坂書房 291 円

また、「旅中日用記」は『狛江市史料集第十』(請求記号 G10-21 コ) p.68 に載っています。

※末尾の数字は請求記号です。図書館の本は、請求記号順に並んでいます。



for YA
お楽しみカバーブック
 ～目次にひとめぼれ～



今秋の読書週間では、11月1日から13日まで「お楽しみカバーブック～目次にひとめぼれ～」を実施しました。カバーブックとは、本に包み紙をかけて中身がわからないようにし、さらに本の内容のヒントになる目次の一文を記載した帯をつけ、それを手がかりにして本を選んで借りてもらうというものです。

初めての試みとなった今回は、ノンフィクション作品に親しむきっかけを作ることを目的とし、主に岩波ジュニア新書やちくまプリマー新書から選定しました。読書の秋、普段は手に取ることのない分野の本や知的好奇心を満たす本との出会いを楽しんでいただけたでしょうか？ また、カバーブックを借りてくれた人だけのお楽しみに、プレゼントとして「読書手帳」を同封しました。自分の読んだ本を記録できる図書館オリジナルのミニノートです。



【カバーブックの一例】

Young Adult (ヤングアダルト)

略してYA (ワイエー) とは、主に中学生・高校生をはじめとする10代の若者をさす言葉です。

平成29年7月1日から、中央図書館内の図書貸出室の一角に「YA Books コーナー」を新設しました。ここには、さまざまな分野の入門書や解説つきの読みやすい本、おすすめの文学作品などを集めて並べています。対象資料には、背表紙に黄色のラベルシールが貼ってあります。



雑誌のリサイクル配布について



毎月第一水曜日に実施しておりました雑誌の定期配布は、混雑による安全配慮のため、11月をもちまして終了することとなりました。今後は随時配布していきます。ご理解よろしくをお願いします。



編集後記

先日、パシフィコ横浜で行われた「図書館総合展」に行ってきました。多くの企業の方や図書館関係者で活気あふれていました。立ち見の方もいて大盛況だった講演を聴き、ブースを回り終え、会場を出たとき、すっと潮の香りが夜風とともに流れてきました。たまには外の空気に触れることも大切だなと肌で感じた1日になりました。

〈編集・発行〉
 平成29年11月23日
 発行
 狛江市立中央図書館
 和泉本町1-1-5
 電話 03-3488-4414

※図書館だよりは音訳版もあります。ご希望の方は中央図書館にお問い合わせください。